

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 広島県立府中高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 726-0032

広島県府中市出口町 898 番地

E-mail fucyu-h@hiroshima-c.ed.jp

Website http://www.fucyu-h.hiroshima-c.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 332 名 女子 379 名 合計 711 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

(1) 通常の授業時間での活動

本校では、主に総合的な学習の時間において、ESDに基づいた次のような取組を実施した。

1 学年では、本校のある府中市が抱える課題の一つである空き家問題や、府中市が保護に取り組んでいるオオムラサキについて、様々な人々の立場から考え、より良く解決するためにはどのようにしていくべきかについて考えた。

2 学年では、主に国際理解についての学習と地域の持続可能性について考える学習を行った。

異文化に対する興味・関心のさらなる醸成や異文化の人々との対人関係能力の向上等を目指して、本校の姉妹校であるハワイ州のミリラニ高校の短期留学生との積極的な交流を図った。ハワイ修学旅行では、ミリラニ高校の生徒に日本文化のプレゼンテーションを英語で行った。また、滞在中にはグループに分かれてハワイの伝統的文化や歴史等を体験的に学んだ。

また、「府中学」と題した地域の抱える課題を発見しその解決について考える学習では、府中市がより良いまちとして持続していくためにはどうするのかにつ

いて、生徒がグループに分かれて探究し、考えた解決案を行政に提言した。

3学年では、これまでの高等学校での学習内容を振り返らせてSDGsとのつながりを考えさせ、ESDの視点で学習内容を整理させた。また、今後の自己の進路とSDGsとのつながりを意識させ、自分が将来貢献できる目標とその手段について考えさせる活動を通して、生き方や在り方についての考察を深めた。

各教科・科目の授業では、題材等に応じて教科・科目の目標を達成する上での手段として、持続可能な社会とのつながりを意識させる活動を取り入れた。例えば、家庭基礎の授業では、持続可能な社会を形成していく上での自己の生活の在り方を考察させる活動を行った。外国語の授業では、環境問題に関する題材を扱う中で、ESDの視点を取り入れて考察させ、自己の意見を表現させる活動を行った。

また、ホームルーム活動の一環として、地域社会への関心をさらに高め、地域が持つ課題の改善に積極的に行動できる態度を育成するため、1学年から3学年までのそれぞれの学年毎に学校周辺のゴミ拾いをしたり、最寄り駅であるJR府中駅の花壇に花を植えたりなど、環境の整備に励んだ。

(2) ユネスコスクール委員会活動

6月には「自然から学ぶ」というテーマで作文を書き、文化祭において展示をした。作文を書くときには「自然と自分たちにはどのような関わりがあるのか」を考えさせ、取り組ませた。展示を見た生徒たちへの啓発活動ともなった。

また、2学期からは校内での課題は何かを考え、「ゴミの問題」について取り組んだ。「ゴミが増えるといけないのか」や「ゴミが社会に与える影響は何か」などを委員で考えた結果、「ゴミは増やさないべきだ」という結論に至り、委員によりゴミ削減の啓発ポスターを作成した。



府中市への提言の様子



ハワイ州ミリラニ高校との交流



ユネスコスクール委員による
作文（自然との共存）



駅前での花植えの様子

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

「ESD QUEST」 「生物多様性を大切にしたい地域づくりをはじめよう」 「未来をつくる BOOK」 SGDs の掲載された図

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、総合的な学習の時間で行うESDについて、「学びと成長のストーリー」を作成し、その中で各学年のESDの実施について明記している。1年生ではESDの概念を導入するとともに、地元の府中市が抱える課題についてESDの視点から考察し、2年次では生徒自身が府中市の課題を見出し、その解決策についてESDの視点を踏まえて考察し、府中市へ提言する活動を、年間を通して行っている。3年次ではESDのまとめとして自己の進路や将来の生き方とESDのつながりについて考察させることで、卒業後も持続可能な社会について考えていく能力や態度を育成することとしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

総合的な学習の時間に係る「学びと成長のストーリー」を作成することで、組織的・計画的に取り組むことができる体制を整えている。また、特別活動として「ユネスコスクール委員会」を設け、その委員会の指導を教務部が担うことにしており、担当者を明確にして生徒の指導に当たるようにしている。組織の体制を整備することで、担当者の変更になっても継続して取り組める環境を整えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

総合的な学習の時間を通してのESDについては、生徒の振り返りを行い、その記述内容等から授業評価を行っている。その結果、生徒に求める水準についての教員間の意識統一や目標達成に向けた指導方法についてはまだ十分ではないことが明らかになっている。委員会活動についても、行動目標の達成評価に留まっており、今後の活動内容が未定の部分がある等、計画・立案と企画の継続性について今後充実させる必要がある。外部評価は現在は導入していない。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

6月の文化祭で「自然から学ぶ」というテーマでユネスコスクール委員が書いた作文を展示した。このことにより、入学して間もない1学年にも「持続可能な社会」について周知することができたことに加え、来場者・保護者にも活動を周知できた。また、2学年が行った府中市への提言では、府中市の課題とその解決策について行政へ提言し、行政の方から実現可能性や持続可能性の視点から評価していただく中で、生徒が現実社会とSDとのつながりを考える力が育成できた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

府中市の行政と連携して、2年次の生徒が行政へ提言する活動を行った。生徒がグループを作り、グループごとに定めたテーマについて、実現可能性や持続可能性を考えながら、様々な提案を考えた。実際に行政の方に来ていただき提言をすることで、生徒自身だけでなく、地元企業の視点や生産者の視点、行政の視点から考える等の多面的に考えることができるとともに、責任を持って提言させることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

他校との交流やネットワークの形成はしていません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

2年次の府中市への提言の活動で生徒が実際に地域の持続可能性について考えたことが、進路希望や将来希望する職業について考えることにつながる生徒が増えた。3年次に実際に受験するときに生徒が書いた志望理由書で、2年次の活動が発端となって今後研究したいことが決定した生徒や、社会に貢献するために自分ができることについて考える生徒が、これまでよりも増えている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ①本校でのESDの全体計画の明確化
総合的な学習の時間に関する「学びと成長のストーリー」だけでなく、教科学習や特別活動でESDの視点を踏まえて育成したい能力・態度がどうつながっているかを明確化し、組織的な指導を一層推進する。
- ②総合的な学習の時間のESDの一層の充実
これまで行ってきた総合的な学習の時間のESDの課題を解決し、学年段階に応じたESDの一層の充実を図る。
- ③教科学習におけるESDの視点の意識化
各教科・科目の授業でこれまでも行っている授業の中でESDの視点を踏まえているものを教員が意識することで、教科学習でのESDを行っていることを明確にする。
- ④委員会活動の充実
委員会活動計画を作成するとともに、生徒自身が活動の意義や意味を意識して取組を進めていける指導を行う体制を整え、指導を進めていく。